

## 今後の分析の方向性について

## ■「第4章 分析」の構成（案）

4. 1 当日の避難行動に関する分析  
：当日、どのような情報をもとに、どのように判断し、どのように避難したかを分析
4. 2 避難行動と事前対策の関連からみた被災要因の分析  
：上記 4.1 を踏まえ、なぜ避難が遅れて多くの犠牲が出たのかについて、さまざまな要因が重なったためであるという前提に立ち、それらの要因を分析
4. 3 事後対応に関する分析  
：事後対応の何が問題で、それがなぜなのかを分析

## 《参考》分析の結果を示す用語の取扱い

(運輸安全委員会)

- ① 断定できる場合：「認められる」
- ② 断定はできないが、ほぼ間違いない場合：「推定される」
- ③ 可能性が高い場合：「考えられる」
- ④ 可能性がある場合：「可能性が考えられる」

**【注意】** 以下に示す分析の論点等は、会議席上における議論のために素案として示すものであり、委員会として確定したものではありません。

## ■当日の避難行動に関する分析（論点素案）

### ①当日、津波に関してどのような情報を得ていたのか？

⇒少なくとも1回目の防災行政無線は鳴っていたものと推定され、これを聞いていたものと考えられる。また、迎えに来た複数の保護者より、大津波警報の発令を聞かされていたものと推定される。さらに、ラジオなどを用いて、災害情報を入手していた可能性がある。したがって、少なくとも「大津波警報（6m）」の情報は得ていたものと推定される。ただし「予想津波高10m」に変更された情報を得ていたかどうかについては、不明。また、消防車や河北総合支所広報車の広報が聞こえていたかどうか不明。

### ②津波来襲の危機感をどのくらい持っていたのか？

⇒少なくとも当初（15時15～20分頃まで？）は、校庭から避難する必要性を感じず、むしろ避難所運営（避難者受け入れ）などに注意が向いていたものと考えられる。津波に対する危機感は、さまざまな情報（迎えに来た保護者からの指摘など）を受けて、時間の経過とともに徐々に高まった可能性が考えられる。

### ③何をきっかけに避難を開始したのか？

⇒次のいずれかの可能性が考えられる。

- a) 河北総合支所の広報車が長面方面から戻りつつ行っていた広報を聞いて（？）
- b) ラジオで近隣海岸への津波来襲（15:21 女川で屋根まで来襲、15:26 鮎川で3m30cmの津波観測、等）を聞いて
- c) ラジオで「予想津波高10m」（入手できた情報では最も早い時刻で15:31）を聞いて
- d) 上記いずれかの情報を得た地域住民又は保護者から避難の必要性を指摘されて
- e) 教職員のいずれかが、様子を見に北上川・富士川の方へ行き、津波の遡上する姿を見て

### ④どのように避難開始・避難先を決定したのか？

⇒教職員単独ではなく、地域住民と相談の上、校庭にいる地域住民（十数名）とともに三角地帯を目指すことを決定したものと考えられる。

### ⑤なぜ、目指したのが三角地帯だったのか？

⇒釜谷地区から見て、最も近隣で、比較的高い位置にある平坦な土地だったためと考えられる。また、避難を呼び掛ける支所広報車と職員が三角地帯にいたことが、この意思決定に関与した可能性が考えられる（？）。

## ⑥なぜ、あのルートを通ったのか？

⇒ 次のような理由により、地域の状況に詳しい地域住民が経路を選び、先導を務めた可能性が考えられる。

- a) 大川小学校と釜谷交流会館の間の道路を県道へ向かうルートよりも、距離的に（若干ではあるが）近道となること
- b) 大川小学校と釜谷交流会館の間の道路には、迎えに来た保護者の車両などが駐車しており、通行しにくくなっていたこと
- c) 大川小学校と釜谷交流会館の間の道路を県道へ向かうことは、低い土地の中を河川へ近づくことになり、津波の危険性が高いと考えたこと

## ■避難行動と事前対策の関連からみた被災要因の分析（論点素案）

### 《前提》

大川小学校において多数の児童・教職員が被災したのは、

\*ほとんどの人が事前に想定していなかった巨大な津波が、海岸から4 km内陸の学校を襲ったことによるものであるが、

\*それでもなお、その被害を防止・軽減することができなかった理由として、さまざまな要因があり、

\*同校ではそれらの要因がすべて重なって存在した（被害を生じなかった他校では、どれかひとつ以上の要因がなかった）ためである

と考えると、これを分析し、今後、同じような被害を防止・軽減するためにそこから教訓を導き出す。

⇒このために、あえて（津波の規模、来襲状況、地理的条件などが異なる）他校の例などと比較して“異なる”と考えられる点を「要因」として抽出

当日の状況等に関する要因	事前対策などの背景要因
<b>①地震直後の津波危険に関する認識</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>津波来襲の可能性が高いとは考えず</li> <li>地域住民等による強い避難の進言なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハザードマップの予想浸水域外</li> <li>津波の際の「避難所」として指定</li> <li>過去の津波被災経験なし</li> </ul>
<b>②津波に関する情報の収集</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>津波来襲の状況が見えず</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>直接海が見えない立地、建物設計</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的ではない（受け身の）情報収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li></li> </ul>
<b>③避難先・避難手段</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>マニュアルに規定された避難先は利用できず</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>津波を想定していない避難先</li> <li>マニュアル策定時の検討が不十分</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>裏山を避難先とはできず</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>崩れやすい山（という認識）</li> <li>登りやすい避難路なし</li> <li>教職員の中に、裏山に詳しい者なし</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>2階建ての校舎で、屋上なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>津波を想定していない設計</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>バス、車等の利用を考えず</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li></li> </ul>
<b>④避難の意思決定</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>校長（最高責任者）の不在</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li></li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急決断が下せない人間関係（?）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トップダウンの指示よりも人間関係を重視する組織運営</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>集まっていた地域住民の存在（避難者対応）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難所運営に対する意識</li> </ul>